

2021年1月28日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

看護師が臨床判断を学習する経験に関する研究：スコーピングレビュー

Nurses' Experiences of Learning Clinical Judgment: A Scoping Review

19MN018

高宮 庸司郎

## 要旨

### 背景

看護師には多様で複雑な臨床状況に応じた迅速かつ的確な臨床判断能力が求められている。これは主に経験から学習することが論じられているが、経験の性質や種類など具体的な知見は整理されていない。

### 目的

臨床判断を学習する経験について国内外の研究を文献レビューし、その研究成果を整理することで、臨床判断を学習する経験の具体的内容を明らかにし、その知見から看護継続教育へ活用するための示唆を得ることを目的とする。

### 研究方法

本研究は文献レビューであり、スコーピングレビューのガイドライン (Tricco et al., 2018) である、PRISMA Extension for Scoping Reviews (PRISMA-ScR) に基づき実施した。文献の検索は、“臨床看護師”、“臨床判断”、“学習する経験”をキーワードに、検索開始期間の設定をせず、PubMed, CINAHL, EMBASE, 医中誌 Web を用いた。検索した文献から、対象が臨床の看護師でないもの、臨床判断に関する研究でないもの、経験の性質や臨床判断に変化を与える要因の記載がないものを除外した。対象文献から経験に関するデータを抽出し、個人を取り巻く環境である「外的経験」と、態度や思考である「内的経験」、および経験の結果として獲得する知識やスキル、変容する信念を「帰結」として位置付けて整理した。

### 結果

電子データベースを検索した結果、合計 788 件の文献を特定し、最終的に 42 件の文献が本研究の対象となった。対象文献から臨床判断を学習する経験の具体的内容を統合した結果、外的経験として、「制約を受けながら判断を迫られる状況との遭遇」、「新しい事象や場面の認識と前向きな対応」、「自身の臨床判断による失敗」、「臨床判断の質に寄与するあらたな枠組みや規範の活用」、「学習活動への参加と参加者との試行錯誤」が、内的経験として、「過去の状況との比較による類似点や相違点の模索」、「感情を含めた自身の臨床判断と他者の臨床判断の照らし合わせ」、「自身の判断に対する恐怖や後悔、やり過ぎそうと消極的になること」、「気がかりについての興味や探求心の認識」が示された。

### 結論

本研究の知見は、臨床判断を促進させる学習支援において、支援のタイミングの検討や、効果的な学習経験の機会の創出に役立つ。また、内的経験では省察の具体的な内容を示しており、省察支援に活用できる。省察支援では自身の臨床実践を言語化することが重要であり、学習支援者を育成することと、学習に効果的な組織基盤を構築することが今後の課題である。